

登山月報



新任の挨拶	2
第29回リードジャパンカップ報告	4
新連載 「山の日」制定記念—ふるさとの山に登ろう—	5
第80回 Mountain World	6
2015 UAAA理事会（キルギス）報告	7
平成26年度事業報告	10
トピックス、新刊図書紹介	13
JMA、寄贈図書、編集後記	13

新任の挨拶

副会長兼専務理事 尾形好雄

私は昭和53年に海外委員会常任委員として日山協に係わり、平成10年から平成20年までは、海外担当専務理事として10年間務めました。四半世紀に亘る長い係わりの後、退任して田舎に戻って無為徒食の自由人を謳歌して



おりました。ところが、また、日山協事務局に狩り出されることになり、早、6年となります。当初は、創立50周年記念事業と公益法人への移行を果たせば、戻れる筈でしたが、鶴の恩返しは未だ続くようです。

さて、中学時代から登山にのめり込んでから早、54年が経ち、登山も大きく様変わりしました。今や登山界はカオスの世界です。一方、スポーツクライミングは、夏季五輪競技への参入話題となるまで隆盛の一端を辿っています。日山協は他の中央競技団体と違って、この両輪を平行で運営していかねばなりません。難しい事です。

八木原会長とは、1981年のカンチェンジュンガ縦走登山から93年冬季エベレスト南西壁登山まで長きに亘って一緒にヒマラヤ登山を実践してきました。日本の登山界をリーダーシップを取って牽引していくには、ヒマラヤの高峰登山とは別の困難があると思いますが、新しい八木原丸を支える副会長兼専務理事として、決意新たに一層精励いたす所存ですので宜しくお願ひします。

おがた よしお 〈尾形好雄プロフィール〉

1948年7月2日、福島県福島市に生まれる。67歳。中学時代から地元の吾妻・安達太良山に登り始め、高校時代に山岳部に入部して山の虜になる。高校卒業後、「雪と岩の会」に入会し、オールラウンド・クライマーとして活躍。1974年からヒマラヤに通いだしその数は17回に及ぶ。8000m峰5座、7000m峰6座(初登頂5座)、6000m峰4座に登頂。45歳で冬季エベレスト南西壁初登攀、49歳でガッシャーブルムⅡ峰・ブロード・ピークの連続登頂などを記録。スポーツニッポン新聞社名誉職員。ヒマラヤンクラブ(ムンバイ)名誉会員。雪と岩の会会員。家族は妻と1女2男。

3年目の正直

副会長 國松嘉仲

今年もはや半年が過ぎ7月(文月)になりました。梅雨明けが待ち遠しいですが夏はもうそこまで来ています。



自然環境に恵まれて育った私たちは、古くから花鳥風月を友として自然と共に人生を歩んできただけに、毎年、春が過ぎ夏を迎えるころになると心に躍動感を抱くのは日本人の持つDNAのせいかもしれません。

日山協も昭和35(1960)年に創設されて、以来55年。「寄り合い所帯で、成り行き任せ、ここぞというとき決められない」と揶揄され続け、変わり映えしなかったのは、日山協の体質そのものだったかも知れませんが、一昨年(平成25年)4月に「公益社団法人」となって、ようやく「何とかしなければ」という機運が高まったのも事実です。

それから3年目を迎えた今年こそ、「三度目の正直」と言う諺がありますように、物事は一度目と二度目は当てにならなくても、三度目なら確実に成就するということに思いを致し、公益法人としての地歩を確固たるものにしなければなりません。

しかも、去る5月の定時総会で、新会長に八木原氏が就任されて『日山協の組織の基盤は、47都道府県山岳連盟(協会)である。その基盤の活性・強化なくして日山協は強くもならないし活性化もしない』(「登山月報 No.555号」)ことを明言されました。

「人手も少なく、先立つものもない」という地方の実情を承知の上で、会長が明言された地方に対する思いや重みは、今回4人にもなった副会長の一人として、会長をきちんと支え、会長の意を体し、その実現のため努力いたします。

今回は特に、「執行体制」が強化され、理事(25人)の担務がより個別具体化され、理事の職務に対する責務が明確になりました。

「三度目の正直」が「二度あることは三度ある」ことにならぬよう職責を果たす覚悟でありますので、どうぞよろしくお願ひします。

くしまつ よしなか 〈國松 嘉仲プロフィール〉

1940年10月18日生まれ、74歳。中大法学部卒業、滋賀県立高校に奉職し管理職になったのち、滋賀県教育委員会に出向し、教職員の人事を担当。その後、県教育次長となり定年退職。定年後は滋賀県希望が丘文化公園長、大学講師、滋賀県近江八幡市および甲賀市教育長。山岳関係では、滋賀県山岳連盟理事長、副会長、会長、顧問を歴任。平成23年度より、近畿地区山岳連盟会長、日山協副会長。1985年滋賀県高体連登山部隊を率いてインド・ザンスカールのヤン峰に初登頂。

副会長就任にあたって

副会長 高橋時夫

公益社団法人日本山岳協会は、我が国を代表する山岳団体として国民が登山を通じて明るく健康な日々を過ごすことができるよう自然愛護の精神のもと安全登山の啓発、遭難事故防止、普及が著しいスポーツライミングの環境整備に努めています。



最近の登山界を取り巻く環境は、多くの国民が世代を超えて気軽に登山を楽しむ時代になってきており、スポーツライミングも身近なスポーツとして普及し資質の向上、国体山岳競技の定着とオリンピック種目への期待等新たな展望が開けつつあり、また国際山岳連盟加盟団体として、国際的な立場での期待も高まっています。反面、山岳遭難は中高年を中心に増加の一途をたどっています。また、火山の活動の活発化による登山者の被災、地球規模での気象変化に伴い多発している山岳遭難等これまでの経験則では避けられない事象が発生しています。日山協として従来にも増して、組織としての安全登山の啓発ために果たす役割は、大きくなってきています。日体協傘下の競技団体として、スポーツライミングへの取組みも重要です。競技スポーツとしての発展とともに、コマーシャルベースとしての係わりも強くなってきています。規範をしっかりと整備して取り組んでいく必要があります。競技年齢の低年齢化が進むなか、岳連（協会）との位置づけもしっかりと整備していかなければなりません。当面の課題として挙げられていますアクションプランの着実な推進と加盟団体の現状の把握に努め、共に課題解決に取り組んでいかなければなりません。そして、

最も重要なことは、我々は、公益社団法人としての社会的使命とともに、47都道府県岳連（協会）と全国高等学校登山専門部が、加盟団体として何を求め、国民が何を期待しているかをしっかりと見据えて活動していかなければならない大切な時期にきています。東日本大震災から4年、東北は、まだまだ復興の途上にあります。今年は、全日本登山大会宮城大会、来年は、希望郷いわて国体、そして国民の祝日「山の日」が施行されます。与えられた任期、南部駒のひたむきな気概を忘れず、汗を流させて頂きます。所信の一端を述べ、就任にあたっての挨拶と致します。

たかはし ときお 〈高橋 時夫プロフィール〉

1948年9月15日生まれ、66歳。岩手県八幡平市在住。岩手県山岳協会会長、環境省自然公園指導員、(公財)日本体育協会公認山岳上級指導員、八幡平遭難対策委員会捜索救助隊長、翌檜山岳会会員、(一社)八幡平市観光協会専務理事、(公社)日本山岳会会員

「時代の先駆け」を心がけて

副会長 亀山健太郎

日山協55年の歴史の中で、今日ほど目まぐるしく登山環境が変化している時代はなかったと記憶しています。この変化に対応するには、山岳スポーツ本来の理念を継承しつつ、時代に即した新しい登山のあり方を探求して



いかなければなりません。公益社団法人としての組織、事業、財政、運営、管理すべてにわたって、視点をかえて見直す必要があります。新しい若い人材の登用も必要です。女性の登山者が激増する中、女性不在の役員構成も今後は正していく必要があります。都道府県岳連（協会）との連携、連帯、共生もより一層大切になります。皆様のお力をいただきながら日山協のために努力してまいります。

かめやま けんたろう 〈亀山 健太郎プロフィール〉

1942年6月13日生、73歳。神奈川県横浜市在住。公益社団法人東京都山岳連盟代表理事(会長)、一般財団法人日本山岳スポーツ協会評議員(大会会長)、公益社団法人日本山岳会会員、日本山岳文化学会会員、日本ハイキング倶楽部運営委員。

第29回リードジャパンカップ報告

6月6日、7日の2日間、和歌山県みなべ町の県立南部高校特設競技場において、「第29回リードジャパンカップ」が、本年10月に開催される和歌山国体山岳競技会のリハーサル大会として開催された。

開会にあたり、国旗、JMA旗、みなべ町旗の掲揚と八木原罔明・日山協会長、小谷芳正・みなべ町長より激励があった。

さて大会は、女子予選から始まり56名が出場し、完登数は昨年の10分1の2名となり22位タイが6名も出るなど波乱の幕開けとなり、27名が準決勝に。男子予選は、81名が出場し10名の完登者を含むこちらも25位タイが3名出て、27名が準決勝へと進んだ。

翌日の準決勝は、男女同時スタートで行われた。

男女とも、決勝への8位以内を目指すサバイバル・ゲームと化した準決勝の展開となった。女子では、予選3位タイ13名中5名しか決勝に残らず内1名が完登し、8名が決勝に進んだ。予選20位の廣重幸紀が、気を取り直し8位で通過した。

男子も同様に、完登者は5名を含む8名が決勝へと進みこちらも1名が完登した。

決勝は、女子から開始され左の壁から中間部のみなべ町のマスコット「紀(き)ちゃん」をトラバースし右の壁へ移動するルート。田嶋あいかが唯一全完登し、圧巻の堂々の優勝を飾った。2位には、昨年のジャパンカップ長崎以来期待されていた、小学6年生の森秋彩が、トラバース手前で繊やかなさを発揮したが、あと一手が届かず

2位。3位には、安定した力を発揮した、義村萌が2年連続の入賞となった。

男子は、女子の逆ルートで右壁下部の小さなホールドを拾いながら左壁へと



男子		女子	
1	樋口 純裕	1	田嶋あいか
2	波田 悠貴	2	森 秋彩
3	中野 稔	3	義村 萌
4	是永敬一郎	4	伊藤ふたば
5	高田 知堯	5	西田 朱李
6	羽鎌田直人	6	樋口 結花
7	野村真一郎	7	廣重 幸紀
8	島谷 尚季	8	水口 僚

「紀ちゃん」をトラバースをする。

樋口純裕、波田悠貴は共に完登は逃したが、一番高度を稼いだ。が、予選、準決勝を完登した樋口がカウントバックにて、優勝となった。3位には昨年惜しくも入賞を逸した、中野稔が雪辱を果たした。

大会を終わってみると、男子は前回大会決勝の選手が競技を主導し、安定した力を発揮した。一方女子は、決勝進出者が11歳から18歳というユース大会を彷彿させる結果であった。

いずれも、多くの観客をくぎ付けにし素晴らしいパフォーマンスを発揮した選手の皆さんが、世界大会で入賞されることを期待したい。



(記 西原斗司男 競技運営委員長)

「山の日」制定記念

—ふるさとの山に登ろう—

群馬県・赤城山

たくさんある群馬の山の中で、紹介するのであれば上毛三山（赤城山、榛名山、妙義山）の一つ、赤城山であろう。32年前に行われた群馬の国体は「赤城国体」であったことで、この山がいかに県民に親しまれているかがおわかりいただけると思う。

「裾野は長し赤城山」とローカルな上毛かるたで詠まれる通り、富士山に次いで日本第二の裾野を有する複合成層火山で、日本百名山にも選ばれている風格のある山である。標高1340m付近には大沼と覚満淵のカルデラ湖、1470mには火口湖の小沼があり四季を通じて観光客を楽しませている。春はツツジと新緑、夏は避暑登山、秋は紅葉を楽しめ、冬はスノーシュートレックで休日平日を問わず登山者が絶えることがない。

赤城山はツツジの山と言われるほどたくさんのツツジが咲く。4月中旬から6月中旬までがベスト・シーズンだ。

さて、このような魅力的な赤城山を楽しめる、いくつかのルートを皆さんに紹介しよう。

1. 黒檜山1828mから駒ヶ岳1689m

(赤城最高峰を登る)

登山口は赤城神社近くから。いきなり急登となるが、猫岩に出ると大沼を中心とした景色がきれいだ。最後まで急登。山頂付近の分岐は左へ。ゆっくり歩いても2時間で山頂へ。山頂の景色は今一つなので5分奥に進むと展望台へ着く。北から西の展望が開ける。

登って来た道に戻って分岐を直進。すぐに黒檜山大神。ここからは赤城外輪山が一望できる。そのまま駒ヶ岳方面に行くと花見ヶ原コースとの分岐があるので右へ。階段で整備されている登山道を下ると大ダルミ。駒ヶ岳へは軽くひと登り。駒ヶ岳からは東の眺めが良い。ここまで1時間弱。駒ヶ岳より整備された登山道下ると大沼にでる。半日コース。

2. 地蔵岳1674m（黒檜山と大沼の絶景を楽しむ）

地蔵岳へのコースは5コースある。大沼から3コース、白樺牧場から1コース、小沼から1コース。どのコースも1時間以内で山頂に行ける。物足りない人は他のコースと組み合わせるというのも良い考えだ。山頂には一等三角点がある。そして電波塔が多数。360度の景色は赤城山全山と関東平野、遠く富士山も望める。

3. 長七郎山1580m（家族でハイキング）

小沼からのコースは標高差が少なく、子ども連れて



大沼と黒檜山

も楽しめるコース。もちろん生活に疲れたおっちゃんやおばちゃんのリフレッシュにも最適だ。地蔵岳コースと組み合わせる人が多いようだ。小沼の駐車場から沼を左回りに廻るようにして進む。ゆっくり歩いても1時間あれば長七郎山頂に到着する。東群馬と地蔵岳、荒山方面がよく見える。そのまま小沼を一周してもよし、鳥居峠に下って覚満淵を散策するのも楽しい。

4. 鍋割山1332mと荒山1572m（山麓から楽しむ）

県道4号線のひめゆり駐車場から登るのが一般的だ。駐車場から荒山高原を目指して登る。ゆっくり登っても1時間あれば荒山高原に着く。ここは鍋割山と荒山とのコルだ。右に行けば鍋割山。左に行くと荒山である。稜線は急登はなく緩やかなアップダウンを繰り返す。眺めがよく快適な尾根歩きを楽しめる。裸地が多くなってきたのでロープの外には出ないで貰いたい。

鍋割山からは関東平野が一望できる。空気が澄んでいるとスカイツリーが見えるらしい。もちろん富士山も遠くに見ることができる。

5. 鈴ヶ岳1565m（比較的静かな山を楽しむ）

赤城大沼へ向かう県道4号線のヘアピンカーブが終わる新坂平手前が登山口。白樺牧場に沿うように登山道がある。5月末から6月にかけてこの辺はレンゲツツジが咲き誇り圧巻だ。山容は文字通り鈴の形をしていて渋川から北の地域では一目でわかる。登山口から20分登ると白樺牧場がよく見える展望台に着く。さらに40分ほど登ると鍬柄山に着き大沼と黒檜山、上越国境の山が一望できる。鍬柄山は鈴ヶ岳と標高がほぼ同じ。ここから1430mの大ダオまで一気に下り、同じ高度を岩場が出てくる登山道を登り返すと、頂上に到着する。頂上付近はたくさんの石碑が祀られている。展望は木々に囲まれ今一つ。往復約3時間のコースだ。

(記 群馬県山岳連盟 理事長 佐藤光由)

第80回 Mountain World

エル・キャピタン 2つのフリー化

池田常道

今から45年前の1970年、アンナプルナ南壁が登られて「ヒマラヤ 壁の時代到来」と騒がれた年、ヨセミテのエル・キャピタンで物議をかもし登攀が行われた。ウォーレン・ハーディングとディーン・コールドウェルが、27日にわたる連続行動の末に頂上に抜け出したのである。彼らは固定ロープを張りめぐらし、ピトンやボルト、リベットを打ち込みながら約140kgに及ぶ装備・食糧・水を荷揚げし、1日30mという速度でじりじりと前進して完登した。エル・キャピタンの南バットレスにあたる「ノーズ」の右手、「北アメリカ壁」との間にある傾斜のきつい部分に拓かれたこのルートは、真っ先に朝日を浴びることから「ウォール・オブ・ジ・アーリー・モーニング・ライト」（曙光の壁）と呼ばれ、その後もっとシンプルに「ドーン・ウォール」（夜明けの壁）と呼びならわされるようになった。

ハーディングの登攀は、過熱したメディアの報道ぶりから「岩壁をテレビ視聴者に売りわたした」（T・M・ハーバート）と批判され、人工手段の濫用も「クライミングのルールを無視した」（クリス・ジョーンズ）と攻撃された。リト・テハダ=フローレスは「この方式は明日のパタゴニアやカラコルムの大岩壁に広げられていくであろう」と危惧したが、その予言どおり、数か月後にはセロ・トーレ南東稜で、チェザーレ・マエストリのボルト登攀が行われた。ハーディングとマエストリはその後、ボルト濫用の悪役として名を残した。

とはいえ、ハーディングの登ったラインは、ビッグウォールをフリー化しようとする現代クライマーにとって、長年の課題であり続けた。エル・キャピタンの壁に拓かれた100余のルートのなかで、フリークライムされたのは、昨年のミア・ウォール（アレックス・オノルド）まで十数本に過ぎない。ドーン・ウォールも、初登時の評判はさておいて、クライマーの意欲を掻き立てる存在であった。

トミー・コールドウェル（初登者のディーンとはなんの関係もない）がこのプロジェクトを思い立ったのは8年前のことだった。1999年のサラテ壁以降ラーキング・フィア、ダイヒードラル、ウェスト・バットレス、マジック・マッシュルームという名だたるルート

をフリーで登ってきた彼もフリー化の可能性には懐疑的だったが、2009年にジョージソンがパートナーとなってから徐々に挑戦は形をとりはじめた。しかし、2010年の試みはシーズンが終わるまで成就せず、翌年はジョージソンが16ピッチ目で転落・負傷して中断。2013年にはコールドウェル自身も負傷した。

それでも2014年11月には核心の14ピッチ目を解決、完登が視野に入ってきた。そこでふたりは12月27日から最終トライに踏み切った。冬の寒気が微細なホールドを駆使する登攀の助けになるという目算もあった。ジョージソンは指先の皮膚が消耗して、15ピッチ目を解決するのに1週間を要したものの、5ピッチ先行していたコールドウェルに追いつき、年が明けた1月14日、終了点に達した。5.14c/dというグレードは、ビッグウォール・フリーにおける最高グレードとなった。この登攀はインターネットを通じて逐一報道され、情報の流れとしてはハーディングのころを凌ぐものとなったが、45年前のような批判が巻き起こらなかったのは、やはり時代の趨勢と言うべきだろうか。

それから半年後の6月17日、今度はメイソン・アールがハート・ルートのフリー化に成功した。こちらも1970年、ドーン・ウォールにさきだつ4月に拓かれたルートで、初登者のチャック・クロガーとスコット・デイヴィスは当時のヨセミテ常連組ではなくスタンフォード大学の学生に過ぎず、ボルトも27本しか使わなかった。彼らの成功は、ヨセミテにおける英雄的要素を取り払ったものとして語り継がれてきた。

アールはブラッド・ゴブライトとふたりで5年前からこのルートに着手したが、あまりの難しさにひるんでいったん中断、挑戦を再開して成功に結びつけた。核心はボルダームーヴV10を含む6ピッチ目だったが、身長が6フィートに満たないゴブライトは、わずか3mの横への動きに失敗、アールだけが成功した。



(写真説明)

エル・キャピタン、ドーン・ウォールの登攀ライン（赤線）

2015UAAA理事会 (キルギス) 報告

●出席者 神崎忠男顧問、小野寺齊 (記録)

●日程 2015年6月8日～13日

9日に空港に到着、10日に理事会、11日にキルギスの歴史の紹介を受け、12日に出発、13日に帰国となる。

●場所 宿泊、会議は同じホテルで行われた。空港から40分程度のところにある「Alpinist Hotel」である。本当のアルピニストが経営しているとのことであるが、会うことは出来なかった。

・主管:KAC (Kyrgyz Alpine Club) キルギス山岳会

●キルギスについて

正式にはキルギス共和国という名称であり、ソ連崩壊と共に独立した。中央アジアの一国であり、中国、カザフスタン、タジキスタン、ウズベキスタンと国境を接する、独立国家共同体 (CIS) の一員である。山はボベータ、天山などの高峰を中心に全体的に国土の高度は高い。この辺りのなかでは比較的気候に恵まれ、砂漠はないし平地においては野菜等食糧に恵まれている。首都はビシュケクにあり、市内にはビール工場もある。全体的に車が多く、特に日本製が目立つ。

1. 事前処理

前年度の活動報告ということとしてPower Pointで作成したデータを送っていただいた。

2. 参加国

日本 (日山協、労山) の他、会長国である韓国 (KAF)、主管のキルギス (KAC) そして台湾 (CTAA / 中華台北山岳協会、CTMA / 中華台北健行登山会)、香港 (CHKMCU / 中国香港攀登ユニオン)、珍しくイラン (IMSCF / イラン山岳スポーツクライミング連盟)、オブザーバとしてカザフスタン (MCFRK / カザフスタン共和国山岳登攀連盟)、ノボシビルスク (NMF / ノボシビルスク山岳連盟) の

8か国10団体であった。中国、ネパール、インド、パキスタンというヒマラヤ国やモンゴルは欠席であった。大地震のあったネパールは当初は出席予定であったが、やはり欠席となった。

3. 議事

3-1 開催に当たって

- (1)ネパール地震、ヒマラヤ等で亡くなられた方々に対して黙とう。
- (2)UAAA会長挨拶、ホスト国KAC会長挨拶。
- (3)中国、モンゴルからの出席出来ない理由等のメッセージの紹介。
- (4)今回の協議事項の承認。
- (5)前回・広島での議事録 (A4サイズ11ページ) を読み上げての承認。

3-2 UAAAレポートとしてのネパールの地震災害について

UAAA会長は地震後いち早くネパールNMAを訪問、個人とKAFの義援金を置いてきたことの報告。この後UAAAとして\$5000の寄付をしてきたことについても報告があった。NMAに対して義援金を拠出することの是非に関しては、日本の山岳6団体ではネパールという国情も踏まえ、躊躇もあるが、NMAはUAAA構成国の一つであり、それはやむを得ないと思われる。同時にNMA会長のアンツェリン氏からのメッセージも紹介された。

3-3 各加盟団体からの活動報告

- (1)JWAF (日本勤労者山岳連盟)
御嶽の噴火及び、その時において火口付近から無事生還した女性の話が紹介された。
- (2)JMA (日本山岳協会)

報告に先立ち神崎顧問から2点について発表があった。1つは今年の広島山岳平和祭・UAAA20周年記

モンゴルへ行かれるなら 風の旅行社名古屋にお任せ下さい

オトゴンテンゲル登山、フラワーハイキング等、乗馬だけでない魅力がモンゴルにはあります。ご友人同士、ご夫婦、山岳会の合宿等、あなただけのオリジナルプランをご提案いたします。是非お気軽にご相談下さい。

**株式会社
風の旅行社名古屋**

愛知県知事登録旅行業第3-1367号 日本旅行業協会正会員
総合旅行業務取扱管理者 古谷 朋之
〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-12 サカエ東栄ビル6F

TEL 0120-987-321 FAX 052-228-6232 e-mail nagoya@kaze-travel.co.jp

パタゴニアを代表する2大山群でしっかりトレッキング

パタゴニア・スーパー・トレッキング パイン&フィッツロイ山群 15日間

発着地 東京 出発日 11/6(金)・11/13(金)・12/4(金)
旅行代金 ¥968,000 1/8(金)・1/15(金)・1/29(金)
※燃油サーチャージ(2015年6月20日現在:目安約21,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/JTF保証会員

アルパインツアーサービス株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

念総会についての御礼。「成功裏に終わったと思う、皆様に感謝します」。次にJMAの会長退任の挨拶・報告。「4年に亘りましたが無事任期を全うできました。厚く御礼申し上げますと共に次期会長は八木原です。私と違って大人しいので宜しく面倒をみてほしい。」とのこと。

引き続き活動報告はPPTを用いて、昨年の総会の模様、スポーツクライミング活動状況（後述）等であった。特に20周年記念誌を各団体に約10部ずつ配布し、JMAの多大な貢献と評価された。

(3)NMF（ノボシビルスク山岳連盟）

ノボシビルスクはロシアの一部であり、独立した国ではないが、UAAAに参加希望であり、今回はオブザーバとしての参加であった。KACの紹介とみられる。会員の一部はロシア山岳会に入っているがその支部ではない。会員数は500人ほどであるが数々の教育プログラムが紹介された。アルタイ山脈付近で行っているとのこと。トレランも盛んでロシアカップに参加、スキーの実践的トレーニングも行っている、UAAAメンバーとして積極的に活動していきたいとのこと。

(4)KAC（キルギス山岳会）

Mountain Sprit Projectは今後も続けていきたい。レーニン峰には昨年は日本から2名参加、今年も2名参加の予定である。クライミング部門ではイランのクライマーが新ルート開拓を行った。Afanasy Shabinという有名な画家がおり、この画集を各山岳団体のロゴを入れて販売したらどうか、という提案（売り込み）。200部作製で1部辺りUSD45とのこと。

(5)CHKMCU（中国香港攀登ユニオン）

CMAやIFSC主催の各種スポーツクライミング選手権に参加している。日本開催にも参戦している。

(6)MCFRK（カザフスタン共和国山岳登攀連盟）

実は元々UAAAのメンバーであった。国内の事情を事細かに説明していたが、改めて会費を払ってUAAAメンバーになりたいとのこと。再入会等議論については後述する。

(7)IMSCF（イラン山岳スポーツクライミング連盟）

久々の参加である。国際クライミングフェスティバルを3回開催した、次は2016年である。今年はダマヴァンド山でもUIAA-Youth補助でフェスティバルを開催する。これには日本からも1名エントリーしている。自然保護で子供向けプランも考えている。

(8)CTAA（中華台北山岳協会）

1926年創立で来年は90周年である。その一環として

台湾を南北に分け、北と南のトラバースを実践している。ガイドトレーニングや、リバートレース（沢登り）フェスティバルを行っている。スイス・バーデンのIFSC総会に参加した。

(9)CTMA（中華台北健行登山会）

活動というよりはネパールに対する寄付の送り先について考えていることを説明、ボーイスカウト、Red & Cross、TCF.orgなどを紹介した。

(10)KAF（大韓山岳連盟）

2014年の1年間の事業について説明、アイスクライミング、メディアミーティング、レスキュー協会との打ち合わせ、などなど。2018年のオリンピックについてUIAA会長等と打ち合わせ。カトマンズに連絡事務所を設けた。世界に5つしかない。ネパールにはUSD100,000寄付した。お金もよいがそれよりモンズーンを控えテントがほしいとのこと。

3-4. コミッション（委員会）レポート

コミッションには自然保護（イラン担当）、青少年/ユース（中国担当）、遠征（ネパール担当）の3部門があり、個々の加盟団体が担当団体に状況を報告するのであるが、それがここ数年なされておらず活動が停滞している。担当国も今回はイランのみの参加である。イランからは何も方針がなく同じことばかりしているから進展がないのだ。もっと真剣に考えなくてはいけない、とのこと。いろいろと意見が出たが日本/JMA, JWAfがともに提案した各コミッションは複数団体で構成し、リーダー団体を決めて運営すべき、との意見でまとまった。そして年ごとに方針を出し、レポートを提出するようになる。この会議の後に事務局から各団体にメールがいき、どのコミッションに所属したいか希望を入れて返信すること、その後事務局で所属を割り当て、リーダー団体を決定することになった。

3-5. 財政報告

CTMAが財政担当で、CHKMCUが監査担当、今年はネパールへの義援金USD5,000と理事会、総



会のホスト国に各USD1,000ずつの支出以外は例年通り何もない。ただ、加盟していながら会費を払わない国がある。例えばシンガポールなども加盟国であるがここ数年支払っていない、しかしAFSCでは会長国であり、このギャップをどうするかが問題になった。(後述)

3-6. メンバーシップ/新規加盟

ノボシビルスクとカザフスタンについては、理事会では承認、総会で正式入会を決めることになる。モンゴルの時もそうだったし、いつも新規入会等で揉めるが、定款(AoA)できちんとこの辺りのことを定めたらどうか、ということになった。別件として、JMAからであるが、UAAAにはインドネシアが入っていない。2018年にはインドネシアで開催されるアジア選手権にクライミングも入っている。さっきのシンガポールもそうであるが、もっとUAAA-AFSCは連携を強くしていくべきだ。さらに言うと2020Tokyoにおいては開催国枠として通常の競技にプラスして新しく種目を追加してよいことになっている。そのことで日本国内では野球や空手などが政治家と密着、我こそはとマスコミを使いアピールしている。IOCから見ると決めるのはIOCであるとして苦々しく思っている。クライミングには目もかけてくれないが、場合によってはスポーツクライミングが選択される、という可能性もある。UAAAもUIAAの二の舞にならないようにもっと幅広く行くべきだ。

3-7. 合同遠征

本件、広島での総会においても、人が集まらずネパール政府がもっと安く提供しようと言うことであった。イランからもこの費用は高すぎる、6000峰でこの値段だと、自分たちでもっとよいところに行ける。インドからも低価格での提案が出てきそう。UAAAという名前で企画するなら誰でも参加できる価格帯で、それなりの山を選んでほしい、という要望が出た。

3-8. その他

(1)ポカラ山岳博物館

NMAに博物館内のUAAAスペースに展示企画を



依頼しているがいまのところ返事なし。

(2)アジア山岳スキー競技

いまのところ参加国に制限があり、UAAAとしての開催は難しい。

(3)UAAA事務所

韓国に置く、ということは前回で決まった。CTMAからは銀行口座も開設し、USD10,000を預金し、利息など必要に応じて使ったらどうか、という意見が出たが、却下された。

3-9. 次回開催

2015年総会 ソウル、UIAA総会と同時開催
10/23~26の期間となる。

2016 理事会 北京、総会 カトマンズ。

2017 理事会 ノボシビルスク、総会 イラン
※今度の総会で正式決定。

3-10. 閉会

UAAA会長挨拶、遠いところを皆さん有難う。よい会議でした。神崎さん、いつも有難う。気を付けてお帰り下さい。(記 小野寺齊常務理事)

参加者募集中!!

- ◆中高年安全登山指導者講習会(東部・西部地区)
- ◆無雪期レスキュー講習会(8月3日から受付)
申込方法・開催要項は下記をご覧ください。
<http://www.jma-sangaku.or.jp>

〈ネパール大地震救援募金振込先〉

- みずほ銀行 渋谷支店 普通口座3382501
口座名「公益社団法人日本山岳協会免税口」
- 郵便局の郵便振替払込用紙を使われる場合は、
口座記号番号：00110-5-546693、加入者名：公益社団法人日本山岳協会
(※通信欄に「ネパール大地震救援募金」とお書き下さい。住所、氏名、電話番号もご記入願います。)

- ①募金は1口2千円です。
- ②第1次募金期間：平成27年5月1日~10月31日

【連絡先】

公益社団法人 日本山岳協会
〒150-8050
東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館内
電話 03-3481-2396 FAX 03-3481-2395
E-mail : info@jma-sangaku.or.jp
H.P : <http://www.jma-sangaku.or.jp>

平成26年度事業報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

総括

組織・体制では、26年度から、(公財)全国高等学校体育連盟登山専門部が新たに加盟し、48加盟団体としてスタートした。

このことをうけ、8に月神奈川県箱根山塊で開催された「第58回全国高等学校登山大会」に役員を派遣し、高校生の登山大会を視察した。

ワーキング・グループ(WG)では、懸案の「登山部」の各委員会を統合して「安全教育委員会」と「環境委員会」に統合し、平成27年度から新体制に移行するために、「登山部統合準備委員会」を設置して検討してきた。登山技術、教育、環境の必要性については合意したが、課題とリソースのギャップが大きく、組織統合だけでは対応できないためリソースの強化策や競技関係業務の移管なども必要で未だ結論が出ていない。現在は具体的な教育のあり方について指導と遭対で年内目標に協議を進めている。

一方、26年度は、特別事業として①日中韓登山技術交流研修会、②IFSCクライミングWC印西2014、③アジア山岳連盟(UAAA)創立20周年記念総会・広島山岳平和祭の3事業に取り組んだ。

①の日中韓登山技術交流研修会には、中国6名、韓国13名、日本延べ60名が参加して実施した。今後の課題を残しつつも概ね好評であった。

②のWC印西では、15ヶ国から59名の選手が参加。年間ランキングのポイントを争っているトップ選手のほとんどが出場したので、大会は大いに盛り上がった。

③の山岳平和祭には、9ヶ国・地域から13加盟団体と日本から約420名が参加して盛大に開催され、所期の目的は達成された。

また、9月の御嶽山噴火災害事故ではマスコミからの取材攻勢や一般人からのクレームなどが殺到し、対応に多忙を極めた。

事故後設置された、気象庁の火山噴火予知連絡会の火山情報の提供に関する検討会と内閣府の火山防災対策推進ワーキング・グループに本会もメンバーに加わり、登山者の立場から意見を述べた。とりわけ、登山者への登山届の啓発・普及や火山情報の提供が喫緊の課題として問題提起された。

財政では、高体連登山専門部の加盟により、高校生の選手登録収入が増収となった。安定財源確保のグローバル・パートナー・プログラムは1社獲得。平成26年度は520万の赤字予算でスタートしたが、前述したように登録料、協賛金、寄附金等の収入増や日本選手権の中止、海外登山奨励金制度の変更等による支出減の結果、黒字に転換できた。

山岳共済会の加入者伸び悩みの打開については、26年度も山岳共済会と協力してホームページなどで外向けに山岳保険の告知・宣伝を積極的に展開した。平成27年7月開始目標にWebからの加入申し込みとクレジット・カードでの支払ができるシステム作りをした。

また、これまで関係諸機関・団体と連携しながら取り組んできた「山の日」制定の祝日化法案は、5月23日の参議

院本会議で可決され、平成28年8月11日から「山の日」(国民の祝日)として制定された。

1. 安全登山普及事業

(1) 青少年育成事業

ア) 高体連登山専門部関連

①平成26年度から高体連登山専門部所属の選手登録を開始。登録者数7,594名。

②第58回全国高等学校登山大会の開催 8/8～12、神奈川県・箱根山塊、総勢754名参加。

③第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会 12/23～24、加須市、189選手出場

イ) ジュニア普及

①「少年少女登山教室」の開催(委託実施21件)

②「みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山2014」8/17～20、国立立山青少年自然の家ほか39名参加

③ジュニア・普及情報交換会 2/14、国立オリンピック記念青少年総合センター、参加者29名

④「みんな集まれ!なすかし雪遊び隊2015」3/27～28 国立那須甲子青少年自然の家、9名参加

ウ) 第5回日本山岳遺産サミット開催への協力 2/28(土)、東京・神田神保町・三井ビル

(2) 登山に関する文化・学術の振興事業

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

・第53回全日本登山体育大会功労者特別表彰:7名

・平成26年度永年参与感謝状贈呈:3名

・新春懇談会特別功労表彰:12名

・第4回日本山岳グランプリの公募と贈賞:故大西保氏(大阪)

・平成26年度日本体育協会公認スポーツ指導者表彰 蛭田伸一(千葉)、開澤浩義(富山)

・平成26年度自然公園指導員自然環境局長表彰 尾形憲治氏(宮城)

・「第64回日本スポーツ賞」:小林幸一郎

ウ) 平成26年度海外登山隊奨励金の公募(2015年3月～8月出発隊対象)と交付

・TASA BRAKKA JAPAN EXPEDITION 2015に交付

オ) 各種登山・山岳スポーツ大会・山岳文化等の後援(25件)

(3) 安全登山の啓発事業

ア) 平成26年度中高年安全登山指導者講習会の開催

①東部地区(青森・岩木山)9/26～28、参加者68名

②西部地区(岡山・蒜山)11/1～3、参加者74名

イ) 山岳レスキュー講習会

①西部地区(富山・国立登山研修所)9/26～28、参加者49名

②東部地区(群馬・土合山の家)1/23～25、参加者41名

ウ) 第53回全日本登山体育大会・徳島大会 10/11～13、徳島県・剣山周辺、170名参加

エ) 平成26年度全国山岳遭難対策協議会の共催(文部科学省他)7/4、東京・文部科学省講堂、300名

オ) 研修及び研究会

- ① 遭難対策研修会兼委員総会 6/28～29、神奈川県あしがら勤労者いこいの村 参加者38名
- ② 遭難常任委員夏山研修会 5/10～11、上尾市スポーツ研修センター
- ③ 国際委員総会兼第33回海外遭難対策研究会 6/14～15 長野県山岳総合センター、参加者60名
- ④ 海外登山懇談会 11/6 国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者17名
- ⑤ 第53回海外登山技術研究会 3/7～8、国立オリンピック記念青少年総合センター、参加者72名
- カ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査
- キ) 山岳保険加入者の事故調査
- ク) UIAA登山標準の調査
 - ・ UIAA登山委員会に青山副委員長を派遣(4/4～5、フランス・シャモニー、11/7～8、トルコ、青山副委員長)
 - ・ UIAA登山委員会の日本開催(平成27年度)の準備
- ケ) 遭難事故の調査研究
 - ・ 遭難事故に関する調査研究(委託事業)
 - ・ 遭難事故の科学的分析
 - ・ ロープ結束の強度検証(7/12～13、国立登山研修所、参加者17名)
- コ) 遭難事故科学的研究支援事業
 - ・ IMSAR研究助成支援(継続)
 - ・ 道迷いシンポジウム協力(3/14)
- サ) 山岳共済会事業として「ヒトココ」のレンタル・サービスを提案
- シ) 気象庁火山噴火予知連絡会「火山情報の提供に関する検討会」への協力
- ス) 内閣府「火山防災対策推進WG」への協力

(4) 登山指導者育成事業

- ア) 指導員研修会
- ① 指導常任委員研修会
 - ・ 8/23～24、神奈川県山岳スポーツセンター 参加者14名
 - ・ 12/13～14、神奈川県山岳スポーツセンター 参加者6名
 - ・ 1/31～2/1、谷川岳・土合山の家、参加者10名
- ② 氷雪技術研修会(A級主任検定・上級指導員養成講習会)・富士山(4/26～27、参加者27名)・大山(2/14～15、参加者24名)
- ③ 登攀技術研修会(研修会、上級指導員、A級主任検定) 11/29～30、岡山・玉野スポーツセンター 39名参加
- ④ 指導委員総会・研修会 6/7～8、東京海員会館 52名参加
- ⑤ 安全登山実践講座・基礎編の開催
- ⑥ 指導・競技委合同研修会 4/21、7/14
- イ) 公認山岳スポーツ指導者の養成
- ① 上級指導員・指導員養成講習会の実施
- ② AC、SCスポーツ指導者資格の分離について検討
- ウ) 国立登山研修所研修会の後援(通年)

2. 競技会運営及び競技力向上事業

(1) 競技会運営事業

- ア) 競技会・研修会の開催
- ① 第9回山岳スキー競技日本選手権大会 4/5～6、長野県・桐池高原、参加選手53名
- ② 第28回リード・ジャパンカップ(長崎国体リハーサル大会)

- 6/7～8、長崎県大村市、参加選手132名
- ③ 第17回JOCジュニアオリンピックカップ 8/2～4、富山県南砺市桜が池cc 参加選手220名
- ④ 全国ルートセッター研修会 8/5～7、富山県南砺市桜が池cc 参加者12名
- ⑤ IFSCKライミングワールドカップ印西大会2014の開催 10/25～26、千葉県印西市・松山下公園総合体育館、15ヶ国から59選手が参加
- ⑥ 第10回ボルダリング・ジャパンカップ 2/21～22 埼玉県・深谷クライミングヴィレッジ 参加選手：男子104名、女子45名
- ⑦ クライミング・ユース日本選手権2015 3/28～29、千葉県印西市・松山下公園総合体育館 参加選手211名
- ⑧ 競技委員会ブロック研修会の開催(11月～3月)
- イ) 国体山岳競技の主管
- ① 第69回長崎国体第1回基準会議、長崎県大村市 5/17～18
- ② 国体競技運営員認定特別研修会、長崎県大村市 5/31～6/1
- ③ 第69回長崎国体第2回基準会議、長崎県大村市 6/6～7
- ④ 組合せ抽選会 岸記念体育会館 9/7
- ⑤ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)
- ⑥ 第69回長崎国体山岳競技の開催 10/17～19、長崎県大村市
- ⑦ 第69回長崎国体以降の開催県への指導
 - ・ 第75回鹿児島国体正規視察(9/2)
- ウ) 競技運営
- ① 競技委員総会 4/6、岸記念体育会館、59名参加
- ② 国体山岳競技規程の一部改定
- ③ 国体山岳競技競技運営員規程の一部改定
- ④ 「日本トレイルランニング会議」設立への協力

(2) 競技力向上事業

- ア) 日本代表選手選考・派遣
- ① 代表(S、A、B)の選考
- ② S代表(安間佐千、野口啓代、小田桃花)及びA、B代表の派遣
- イ) 代表選手の派遣
- ① 世界ユース選手権大会(9/19～23、ニューカレドニア)
- ② IFSCKライミングワールドカップ2014(リード、ボルダリング) 3月～11月 世界各地
- ③ 世界選手権大会(ボルダリング) 8/21～23、ドイツ・ミュンヘン
- ④ 世界選手権大会(リード、パラクライミング) 9/8～14、スペイン・ヒホン
- ⑤ アジア選手権大会 10/1～3、インドネシア・ロンボク
- ウ) 国内強化合宿の開催 外国から指導者を招請実施。(1/4～7、静岡・浜松)
- エ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者へのスポーツ障害予防の啓発
- オ) トップ・クライマーの体力測定(JISSに委託)の結果を分析して競技力向上を図った。
- カ) 競技者育成プログラムの作成と係る事業の検討
- キ) オリンピック・プロジェクト・チームの設置

3. 登山研究調査事業

(1)国際交流事業

ア) 開催

- ①日中韓登山技術交流研修会 9/4～10、群馬県・谷川岳周辺 韓国13名、中国6名、日本側延べ60名参加

イ) 国際交流

- ①イタリア大使館「K2映画特別鑑賞会」協力
②前英国山岳会会長、ミック・ファーラー氏歓迎会(6/11)
③ネパール外務大臣歓迎昼食会(10/9)
④IFSC会長、マルコ・スコラリス氏との協議(10/23、2/8～14)

ウ) 派遣

- ①キルギス山岳会のレーニン峰登山への派遣 7/10～8/4、鈴木百合子、大部良輔
②イタリア山岳会第3回International Trad Climbing Meetへの派遣、9/13～22、イタリア・須田忠明
③BMC International Summer Climbing Meet 2015への派遣者選考 2015.5/10～17、英国・ノース・ウエールズ、神林裕、増本亮

(2)医・科学支援事業

ア) 日体協公認スポーツドクター養成支援事業

イ) UIAA MedCom

- ①UIAA MedCom Meetingへの出席(5/25、イタリア・Bolzano、増山理事)
②日本のカントリー・レポートの作成
③登山と医療に関するRecommendation邦訳の推進

ウ) 日山協が支援している医科学的諸事業

- ①国際認定山岳医研修会
②日本登山医学会認定山岳医研修会
③NPO富士山測候所を活用する会
④JSMM登山者検診ネットワーク
⑤日本登山医学会ファーストエイド講習会

エ) 調査研究事業

- ①トレラン大会の安全基準作成のための調査研究
②医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

オ) 文部科学省「体力づくり国民会議」への協力(強調月間・10月)

(3)ドーピング防止事業

ア) ドーピング検査実施(JADAに委託)

- ・第28回リード・ジャパンカップ大会(6/8)
・IFSCクライミングWC印西2014(10/26)
・第10回ボルダリング・ジャパンカップ大会(2/22)
・クライミング・ユース日本選手権2015(3/29)

イ) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など

- ①ドーピング防止研修会への出席(6/13、ベルサー九段、12/19、新大阪丸ビル別館)
②世界アンチ・ドーピング規程のワークショップ(7/10、ベルサー六本木)
③アンチ・ドーピングガイドブックの配布
④TUE(治療目的使用に関わる除外措置)申請支援
⑤ADAMS(アンチ・ドーピング管理システム)登録選手への管理支援
⑥ドーピング防止研修会の開催(3/28、印西市松山下公園総合体育館)

(4)山岳環境保全事業

ア) 研修及び研究会

- ①自然保護委員総会の開催(11/22、広島市)64名
②常任委員現地研修会 6/14～15、御岳山ビジターセンター 参加者24名
③近畿地区自然保護連絡協議会 5/24、兵庫・神戸登山研修所 参加者19名
④第3回関東地区自然保護交流会の開催 10/18～19、栃木・那須 参加者38名
⑤第5回指導員研修会
・11/8、国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者70名

イ) 自然保護の啓発

- ①自然保護指導員制度の推進
・「指導員の手引き」(改訂版)とPRカードの発行
・ニュース・レター(季刊)の発行
②全国環境月間(6月)の実施
③環境省・自然公園指導員制度への協力
④山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進
・山岳団体自然環境連絡会への参加
・山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進
・各種環境保護事業の後援と派遣
⑤日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

ウ) その他

- ①自然保護指導員規程及び自然保護指導員規程取扱細則の一部改定
②総合的山岳環境保全対策推進(自然公園財団)に係る検討会への協力

(5)その他支援事業

ア) ウィンター・クラマーズ・ミートの支援(1/31～2/2、御在所岳)

4. 共益事業

(1)広報等

- ア)『登山月報』毎月15日定期発行 第541号(4月号)～第552号(3月号)
・編集内容の検討(第553号から16頁、全頁カラー)
イ)HPの更新(<http://www.jma-sangaku.or.jp>)
・HPのアクセス件数(2014年1月1日～2014年12月31日):268,593(訪問数)、157,295(ユーザー数)、955,344(頁閲覧数)※2013年1月1日～2013年12月31日:177,835(訪問数)、95,908(ユーザー数)、727,772(頁閲覧数)

(2)会議等

- ア)総会 5/25(日)(岸記念体育会館)
イ)理事会 5/10(土)、5/25(日)、11/9(日)、3/8(日)
ウ)代表者会議 2/15(日)(日本青年館ホテル)
エ)全国参与会 10/11(土)徳島県(全日大会)
オ)顧問・参与会 1/17(土)(2015年新春懇談会)
カ)WG全体会議 5/11(日)
キ)山岳4団体懇談会 7/16(水)(幹事JAC)
ク)全国「山の日」協議会 通常総会(5/28)、運営委員会(12/12、1/13、3/24)・全国「山の日」フォーラム(3/28～29)東京国際フォーラム

2020年東京五輪追加種目

スポーツクライミングが1次選考通過

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、6月22日、開催都市が国際オリンピック委員会（IOC）に提案できる追加種目の1次選考結果を発表し、スポーツクライミングなど8つの国際競技連盟（IF）が8月7日、8日のヒアリングに進んだ。

選ばれた追加種目候補は、スポーツクライミングのほか野球・ソフトボール、ボウリング、空手、スカッシュ、ローラースポーツ、サーフィン、武術。

2020年東京開催が決まった13年に東京での実施を争った7競技のうち、ウエイクボードが外れ、サーフィンとボウリングが加わった。

種目追加検討会議では事前に設定していた3原則（①若者へのアピール②日本での機運を高める③透明性と公平性）を大前提とし、IOCが公表した35の評価項目を各団体ごとに審査。応募のあった26団体から最終的に8団体を選定した。

組織委員会では今後、8団体に改めて質問状を送付。その回答を基に8月7日、8日に東京でヒアリングを実施し、再び追加種目検討会議でさらに絞り込む。最終的には9月に予定されている理事会の承認を経て、

9月末までにIOCに選定結果を提案。IOCは来年8月の総会（リオデジャネイロ）で正式決定する。

新刊図書紹介

『山のリスクと向き合うために』

村越真・長岡健一 著

オリエンテーリングやナビゲーションの第一人者である村越真さんと国際山岳ガイドの長岡健一さんが登山におけるリスクマネジメントの理論と実践を記した本を上梓した。

本書は、第1部・リスクを知る、第2部・リスクに対処する、第3部・リスクを考える、の3部構成からなり、1章～7章の章立ての中で、山岳遭難に関する基礎的なデータを提示しながら、実践的な対処方略について提案し、リスクに対する現状に対して著者が問題整理を行っている。

本書は、登山者は勿論であるが、特に登山隊やパーティを預かる隊長、リーダーには必読して頂き、リスクマネジメントを実践していただきたい。

B5判、190頁、定価1800円+税、2015年6月28日、発売元：東京新聞



平成27年度6月（27年6月）
常務理事会・連絡部会報告

日時 平成27年6月11日(木)

- 常務理事会：17時30分～19時
- 連絡部会：19時～20時55分

場所 岸記念体育会館103会議室
出席者

- 常務理事会：八木原会長、尾形・國松・高橋・亀山各副会長、西内、仙石、森下、京オ、水島、瀧本、中瀬各常務理事、中島監事（委任）小野寺常務理事（常務理事13名中12名出席）
- 連絡部会：西原、小日向、澤田委員長（委任）相良・増山理事、山本・角田・松隈各委員長

1. 議事

- (1)平成27年度5月常務理事会議事録の承認について（一箇所訂正で承認された）
- (2)平成27年度定時総会議事録の承認について（異議無く承認された）
- (3)平成27年度理事会（第2回）議事録の承認について（異議無く承認された）
- (4)山岳共済会の役員承認について（尾形専務理事より議案の説明後、承

認が諮られ、6名の幹事候補者と3名の監事候補者が、何れも承認された。尚、中島監事から幹事には外部の学識経験者も入れること。幹事の特別利害関係に注意すること。の2点について指摘があった。）

(5)日本代表選手について

（森下常務理事より以下の日本代表選手（追加）の承認が諮られ、何れも承認された。）

- ・リード女子B代表：義村萌、廣重幸紀、水口僚、中村祐香梨、錦織美里、大澤咲子、坂井絢音、清水夏子、高田こころ
- ・リード男子B代表：樋口純裕、波田悠貴、中野稔、高田知亮、羽鎌田直人、野村真一郎、島谷尚季、豊田将史、中上太斗、原田海

世界ユース選手権

- ◇ボルダリング・男子ジュニア：清水裕登（大阪）、渡邊海人（埼玉）
- ・男子ユースA：原田海（大阪）
- ・男子ユースB：河上鉦輝（鳥取）、中村颯人（埼玉）、土肥圭太（神奈川）
- ・女子ユースA：金子桃華（埼玉）
- ・女子ユースB：清水陽華莉（京都）、樋口結花（佐賀）、中村真緒（東京）
- ◇リード・男子ジュニア：是永敬一郎（埼玉）
- ・男子ユースA：豊田将史（山口）中上太斗（福岡）

- ・女子ユースA：錦織美里（広島）
- ・女子ユースB：西田朱李（千葉）
- ◇W-cupオフィシャル・マネージャー：シャモニ：千葉和浩、ブリアンソン：安井博志、イムスト：木村伸介

(6)報告事項

ア 会計月次報告

尾形専務理事から5月31日までの貸借対照表、正味財産増減計算書内訳表の報告があった。

イ 平成27年度専門委員会常任委員候補者推薦について

尾形専務理事より6月末迄に常任委員候補者推薦の提出がお願いされた。

ウ 和歌山国体リハーサル大会報告

西原委員長から和歌山国体リハーサル大会及びリード・ジャパンカップ大会の報告がなされた。

エ 全日本クライミングユース選手権ボルダリング競技大会2015報告

西原委員長から競技大会の報告があった。

オ 平成27年度全国山岳遭難対策協議会について

西内常務理事から実施要綱の説明があった。

カ 国民体育大会功労者表彰対象者の推薦について

尾形専務理事より対象者推薦の説明があった。

キ 理事の管掌業務について
尾形専務理事より理事会(第2回)で決議した理事の管掌業務について説明があった。

ク 企画チーム及びデジタル情報チームについて
尾形専務理事より総務委員会に企画チーム、広報委員会にデジタル情報チームをそれぞれ設けて活動することが報告された。

ケ 東京五輪2020年について
尾形専務理事より6月8日にIFSCが東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に回答書を提出したことが報告。

- 寺常務理事
- (2)日本山岳ガイド協会第13回通常総会懇親会 5月12日(火) 於:弘済会館 神崎会長
 - (3)平成27年度理事会(第1回) 5月16日(土) 於:岸記念体育会館 神崎会長ほか
 - (4)全日本ユース選手権ボルダリング競大会2015 5月16日(土)~17日(日) 於:鳥取県・倉吉市 神崎会長、京才常務理事
 - (5)神奈川県山岳連盟総会 5月19日(火) 於:かながわ県民活動サポートセンター 神崎会長
 - (6)全国「山の日」協議会通常総会 5月22日(金) 於:衆議院第2議員会館1F第2多目的会議室 神崎会長、尾形専務理事
 - (7)平成27年度和歌山県山岳連盟競技役員講習会 5月24日(日) 於:和歌山市・河南コミュニティーセンター 西原委員長
 - (8)第2回JOC-NF強化関係連絡連携会議 5月25日(日) 於:岸記念

- 体育会館 小野寺常務理事、中川事務局長
- (9)平成27年度JOC第1回選手強化本部会 5月26日(火) 於:味の素ナショナルトレーニングセンター 中川事務局長
- (10)東京都山岳連盟総会 5月26日(火) 於:国立オリンピック記念青少年総合センター 神崎会長
- (11)ネパール大地震救援募金打合せ 5月26日(火) 於:スポーツマンクラブ 神崎会長、尾形専務理事、小野寺常務理事
- (12)平成27年度定時総会 5月31日(日) 於:岸記念体育会館 神崎会長ほか
- (13)平成27年度理事会(第2回) 5月31日(日) 於:岸記念体育会館 八木原会長ほか
- (14)平成27年度山岳遭難対策中央協議会幹事会(第1回) 6月1日(月) 於:文部科学省 西内常務理事、中川事務局長
- (15)JOC総務委員会 6月2日(火) 於:岸記念体育会館 尾形専務理事
- (16)イタリア・ナショナルデー・レセプション 6月2日(火) 於:イタリア大使館 神崎顧問
- (17)第70回和歌山国体第2回基準会議 6月4日(金) 於:和歌山県みなべ町 八木原会長、國松副会長、森下常務理事、西原・山本・小日向各委員長
- (18)第29回リード・ジャパンカップ大会(第70回和歌山国体リハーサル大会) 6月6日(土)~7日(日) 於:和歌山県みなべ町 八木原会長、國松副会長、森下常務理事、西原・山本・小日向各委員長
- (19)国立登山研修所専門調査委員会 6月8日(月)~9日(火) 於:国立登山研修所 尾形専務理事、北村・増山理事
- (20)UAA A理事会 6月9日(火)~12日(金) 於:キルギス 神崎顧問、小野寺常務理事
- (21)日体協国体運営部会 6月10日(水) 於:岸記念体育会館 西原委員長

2. 報告

- (1)主任検定員の認定承認
 - ①AC主任検定員:植木孝(栃木)、佐藤誠(岩手)以上2名(異議無く承認された)
3. 日誌(4月30日~6月10日)
- (1)ネパール大地震救援募金打合せ 5月11日(火) 於:スポーツマンクラブ 神崎会長、尾形専務理事、小野

寄贈図書

寄贈本	金邦夫 山と溪谷社	「すぐそこにある遭難事故」金邦夫 著 「山怪 山人が語る不思議な話」田中康弘 著
雑誌	長崎県山岳連盟 下田泰義 山と溪谷社 東京新聞出版部	「登頂断念紀 1997The Nagasaki.M.A SATOPANTH Expedition」 「フリークライミング&ボルダリング」佐川史佳 編著 「山のリスクと向き合うために」村越真・長岡健一 著
会報	(株)ネイチュアエンタープライズ (公財)東京都スポーツ文化事業団 兵庫山岳連盟 日本山岳写真協会 横浜山岳会 山と溪谷社 (公財)全日本ボウリング協会 埼玉山岳連盟 Korean Alpine Federation Corean Alpine Club 長野山岳協会 (公社)日本武術太極拳連盟 スクールパートナーズ 山と溪谷社 新潟山岳協会 La rivista de Club alpine italiano 愛知県山岳連盟 やまびこ山想会 モンベル 日本勤労者山岳連盟 (一財)日本防火・防災協会 Korean Alpine Federation (公財)日本山岳会 東京野歩路会 日本山岳写真協会 神奈川県山岳連盟 (公財)日本体育協会 福岡山の会 (公社)日本山岳会自然保護委員会 おいらく山岳会 La rivista de Club alpine italiano 日本ヒマラヤ協会	「岳人」No.817 2015 July 「スマイルスポーツ」Vol.62 「兵庫山岳」第576号 「日本山岳写真協会ニュース」第422号 「月刊山」996号 「ROCK & SNOW」2015 JUN 「JBC news」第523号 「埼玉岳連」第51号 「KOREAN MOUNTAINEERING ANNUAL2015」No.16 「山」Vol.242 2015MAY-JUN 「やまなみ」No.217 「武術太極拳」2015 6/10 No.308 「高校生新聞・高校生スポーツ」6月号 第227号 「山と溪谷」No.963 2015 July 「新山協ニュース」第318号 「Montagne360」giugno2015 「愛知岳連ニュース」第413号 「やまびこ」第159号 「OUTWARD」Special Number 「登山時報」2015 7月 No.485 「地域防災」No.2 「大山驛」Vol.198 「山」No.841 2015年6月号 「山嶺」No.1024 「日本山岳写真協会ニュース」6月号 「ときわ木」168号 2015夏 「体協スポーツニュース・体協フェアプレイニュース」2015年6月22日号 「せふり」No.368 「木の目 草の芽」第116号 「山行手帖」No.365,366,367,368,369 「Montagne360」novembre2014 「ヒマラヤ」No.473

編集後記

先の総会で広報委員会にデジタル情報チームを設置しHPの見直しをすることが承認された。現在運用されている枠組みは内向き(会員向け)で、一般の訪問者にはわかりにくいと言われている。公益性の看板にはネット社会で生き残る必要があり、根本的な改造が必要で、専門家や経験者のアドバイスが不可欠であります。先達の提言を期待します。(広報担当 水島彰治)

登山月報 第556号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)
 発行日 平成27年7月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 FAX 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和岡峠「峠の茶屋」TEL:042-687-2882

コーンロッジ安全管理 TEL:042-687-4011

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会
- 陣馬高尾ムーンナイトトレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

山岳
雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすすめです。

購読割引

送料無料

限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊

8,160円

(税込8,812円)

年間購読12冊

7,480円

(税込8,078円)

1年間で680円

1冊分無料

年間購読
特典



岳人マグカップ
をプレゼント!



8月号
7/15発売

「岳人」8月号

【特集】沢登りの世界

【好評連載】夢枕 獺『神々の山嶺』創作ノート
／フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」
／石川直樹「まれびと」／秘境探訪 ほか

本体価格 680円

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

年間購読
お申し込み方法

●ウェブサイトで

<http://www.gakujin.jp>

●お電話で(受付後に振込用紙をお送りします)

☎ 0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

●全国のモンベルストアで

<http://store.montbell.jp>

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



三井住友海上の安心

GK

www.ms-ins.com

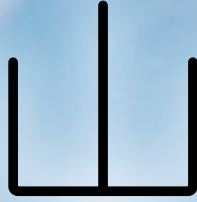
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8
月
11
日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます